

ここにもあった「お宝」～児山城と守り隊～

こまる



下毛野朝臣古麻呂
(しもつけのおそんこまる)
(大宝律令の選定に携わった
下野市ゆかりの人物)

第17号では緑あふれる下野市のヤマ(平地林)について、その歴史や人々の関わり方などを紹介しました。今号のらいさまでは下古山のヤマ(平地林)であり、史跡でもある児山城址に焦点をあててみました。下古山に築かれた児山城址のヤマ(平地林)が今の姿になるまでには、様々な人が関わっており、現在もその保全に多くの人が取り組んでいることを紹介します。

児山城址守り隊は、県の指定史跡である児山城を地域の宝として後世に伝え残すために児山城址の整備や保全活動に取り組んでいる団体です。その活動は草刈りや落ち葉さらいなどの維持管理の他、ヤマユリの鑑賞会や野点茶会、音楽会などのイベントを実施することにより、地域の魅力を高めつつ地域内外に発信しています。

元々は、栄町コミュニティ推進協議会の郷土史講座に参加した市民数名が、児山城址の荒れ果てた様子を見てなんとかしようと考え、平成27年に地域からボランティア会員を募り活動をはじめました。翌年には本格的に保全活動を開始しますが、堀に生えた竹や倒木、間伐材、草刈りで刈った草などトラック数十台分を搬出するという大変な作業でした。【右側写真】

現在、児山城址守り隊は約30名の会員がいます。真夏の草刈りや厳冬期の落ち葉集めなど、保全整備にはボランティアの力が欠かせません。整備することでヤマユリが芽吹いたりサシバというタカの仲間である鳥が営巣するなど、里山の環境が戻ってきています。

取材も児山城址に広がる緑の中で行いました。

児山城址守り隊の黒須さんと鈴井さんはらいさまの編集委員も務めています。



茎が折れそうなほどのヤマユリ



児山城址守り隊の初代会長であり、郷土史研究者、市文化財保護審議会会長の小林利孝さん



児山城址守り隊がきれいに維持してくれている城跡は、ドラマの撮影場所として使用されたりJR主催のハイキングコースに入ったりして、その歴史をたくさんの人に感じてもらっているんだ!



べにまる



つながッテルね!
条例13条

(市民の責務)

第13条 市民は、次に掲げる責務を有するものとする。

(3) 自らがまちづくりの主体であることを自覚し、実践すること。